

平成26年度第2回千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会議事録要旨

1 日 時： 平成26年10月3日（金）午前10時30分～正午

2 場 所： 千葉競輪場4階多目的室

3 出席者： （委員）

森委員長、白土委員、山本委員、市原委員、藤本委員
（事務局）

今井経済部長、大堀所長、齋藤主査、葛巻主任主事
（日本写真判定株式会社 以下JPF）

渡辺代表取締役、町田代表取締役専務、小宮事業長
荻原事業長代理、下村事業長代理、高橋主任

4 議 題

（1）包括業務委託の進捗状況モニタリングについて（7月～9月）

（2）委員会提案事項の報告について

5 会議経過

（森委員長）

議題1の包括業務委託の進捗状況モニタリングについて及び議題2の委員会提案事項の報告についてJPFに説明を求める。

（JPF）

議題1及び議題2について、資料に基づき下記の項目を説明。

- ・包括業務委託の進捗状況
- ・前回委員会提案事項の報告
- ・売上・事業計画進捗報告
- ・ネクストステップ
- ・モニタリングの振り返り

（森委員長）

事務局にモニタリング結果の説明を求める。

（事務局 齋藤主査）

- ・受託者から提出のあった平成26年度開催事業実施計画にもとづき計画通り事業を実

施していることを確認した。

- ・ 7月～9月の開催業務実施計画書及び開催業務実施報告書の提出を受けて、市営競輪の開催業務について検査を行い、実施計画通り開催業務を良好に遂行していることを評価した。

(藤本委員)

キャッシュバックキャンペーンでの2.5倍の電話投票、インターネット投票の車券売上の増加について説明を求める。

(J P F)

- ・キャッシュバックを対象にしたレースで、前年度と同じような条件で開催したF Iの平均と比較して約2.5倍の車券売上が増加したと考えている。

(藤本委員)

実際の売上からキャッシュバック分を差引いた数値か。

(J P F)

- ・売上からキャッシュバックの経費を支払うのではなく、千葉市からの受託料の中からキャッシュバックの費用を支払っている。

(藤本委員)

キャッシュバック分を加味した売上の向上があるのか、それともキャッシュバック率を変えるのか。

(J P F)

- ・キャッシュバック率を変えることは出来ない。競馬ではプレミアムレース、オートレースでは払戻率を下げての対応など、お客様に対するサービスであったり、運営を維持するための政策であったり色々な企画で対応している。今回のキャッシュバックでは、お客様に対する払戻率をアップさせる形で実施した。
- ・今回は、元々の売上が数十万程度の賭式を対象に取り組んだ。支払額が多額となる大きな開催で何千万円、何億円となるような内容だとJ P Fでは対応できない。

(白土委員)

4月以降のナイター場外の車券売上の状況の説明を求める。

(J P F)

- ・平成26年度4月以降で57日開催、総売上が、200,731,500円。1日の平均売上が3,521,600円。購買単価は20,085円。昨年、平成25年度は104日開催して購買単価は18,126円。購入単価は、平成26年度の方が2千円弱上がった。

(白土委員)

開催日数が増えた。お客様も徐々に増えてきている。入場者数はどうか。

(J P F)

- ・入場者数は昨年度よりも落ちている。

(白土委員)

- ・場外でナイター発売だけを見ると、車券売上が増えていないということか。

(J P F)

- ・ナイター発売するレースのグレードにはFⅠとFⅡがあり、ナイター発売の時間まで、レースがFⅠの場合はお客様に残ってもらえるが、FⅡの場合は残ってもらえない。下期のナイターはFⅠ開催をメインに考えている。

(白土委員)

既存の、昼に来場したお客様にどれだけ残ってもらえるかということか。

(J P F)

- ・サマーナイトでのビアガーデンサービスを7月8月の金、土、日曜日に企画した。広報としては、千葉都市モノレールに協力してもらっている。

(白土委員)

快適な環境を作ろうとしており、効果的な広報を実施すれば伸び代が大きいと思う。

千葉サイクルクラブの活動については、私も登録していつも見ている。順調に会員を増やしているので、千葉競輪開設記念を千葉市全体で盛り上げれば良いと思う。例えば、千人のお客様に来ていただければ、1%、10人でも良いので競輪ファンになってもらえるような仕組みを作ってもらいたい。

CHIBA LOVES FAIRは、印象も柔らかく、良い作戦だと思う。千葉競輪開設記念だと、昔からのコアなファンがたくさん来場するので、新しいお客さんとのトラブルが起きないように、ゾーン分けなどで工夫していただきたい。

(市原委員)

車券売上と場外収入の年間予測について説明を求める。

(J P F)

- ・車券売上については、昨年度比の減収は、前年度の上期に大きな開催があり今年度は開催が無いことから減収を見込んでいた。
- ・場外収入については、昨年度比で好調を維持している。

(山本委員)

テレビスタジオの移設については、業務効率化のためか。

(J P F)

- ・そのとおり。

(山本委員)

削減額はどのくらいか。

(J P F)

- ・テレビ業務は、大体3名関わっているが、1名に減らして2名分の人件費を削減できる。

(森委員長)

本場での売上の目標額についてどのように考えているのか。

(事務局 大堀所長)

- ・8月の時点では、平成25年度と比べると、開催日数も若干減っているが、車券売上額は17%減っている。場外車券売上額は10%減っている。年間を通しての競輪事業なので、10月に千葉競輪開設記念終了後に年間の見通しができると考えている。

(森委員長)

全国の上半期の車券売上額は、全競輪場の車券売上額が対前年度比102.3%と伸びている。特にFⅠの売上が伸びている。FⅡについては開催日数を大幅に減らしているが、FⅠの場外等を積極的に展開して、全国の本場の車券売上額も上がっている。FⅠについては、対前年比10%の増。また、GⅢについても平成26年度からは12レース制にしたことにより車券売上額が上昇している。

千葉競輪場で車券売上額が下がっている状況は全体から比較すると問題がある。

(事務局 大堀所長)

- ・前年と比べれば下がっているが、去年はジャパンカップがあって売上がかなり良かった。ジャパンカップを開催しなかった平成24年度と比べると、車券売上額は上がっている。

(森委員長)

千葉競輪場では、HD化（データ通信の高画質化に対応できる映像システムに変更すること）を導入したのか。

(事務局 大堀所長)

- ・HD化の導入については費用がかかることなので、今後検討する。

(森委員長)

HD化について平成28年に全競輪場が切り替えるという事を決めており、それを前倒しをして平成27年度からお客様サービスとして対応することになっている。対応していただきたい。

(市原委員)

千葉市の2015年2月の地域経済活性化案の中に競輪業界に絡むキーワードが幾つかあった。サイクルツーリズム化構想とロングライフツーリズム構想。姉妹都市のヒューストン、天津市、ノースバンクーバー、モントルー、ケソンと千葉競輪場の情報交換はあるのか。

(事務局 今井経済部長)

千葉市の新経済活性化戦略については、向こう10年間の計画で、当時から経済情勢は大きく変わり、政権も代わった。今年度、千葉市の予算の中で次期経済の活性化戦略をベースにしてアクションプランを作成した。この中で経済部で所管する様々な事業、公営事業を含めて、内部作業を進めている。

(市原委員)

2014年の2月に策定予定だったが、情勢が変わっているという事か。

(事務局 今井経済部長)

そのとおり。

(藤本委員)

本日、施設を見学したところ、凄く綺麗になった印象を受けたが、レストランなど食事をするところがどこにあるのかわからない。わかりやすくできないか。

(J P F)

まさに当初からやりたいと思っていた改善内容。今後、施行者と調整して、売店、自転車屋、グッズ販売などができる状況を作りたい。

(山本委員)

競輪運営について、千葉市としては現在の課題をどのように考えているのか。

(事務局 今井経済部長)

- ・包括委託から1年半たった段階で、収支については改善している。今後、競輪事業における最大の課題が競輪場の老朽化。大規模修繕やHD化等、改修の経費が必要になる。
- ・今回、包括委託を始めるにあたり、平成26年度上期までの状況を見極めたうえで、検討する。今年度に関しては、千葉競輪開設記念の車券売上額を加味して、今後のこ

とを考える。

- ・競輪事業の使命は市の財政に貢献すること。赤字が出るような状況になれば、一般論として事業の継続が難しくなる可能性がある。今後必要な経費、車券売上額を見て、総合的に判断する。

(山本委員)

大規模修繕の費用を負担するのは千葉市か。

(事務局 今井経済部長)

- ・大規模修繕の負担は施行者である千葉市。予算の範囲内で、どの程度改善するかを考えていかなければならない。

(森委員長)

了承。